|  |  |
| --- | --- |
| **会場名** | **サブリーダー****役職　　　　　　　　　氏名** |
| 大阪国際会議場 | 次年度国際・社会奉仕委員会　委員長 | 桑城　伸語（大阪梅田東） |
| 10階 | 1009号室 | ﾛｰﾀﾘｰ財団補助金小委員会　委員長　 | 木本　辰也（交野） |
| **リーダー　役職・氏名** |  |  |
| パストガバナー | 片山　勉 |  |  |
|  |  |  |  |
| **議事録作成者** | 浅野　隆弘（大阪平野RC） |

|  |
| --- |
| 開会：（15時40分）司会：嶋田　健一（交野RC） |
| 発表者：パストガバナー　片山　勉　　（15時42分） |
| 【記録内容】開会挨拶・地区の各クラブに対する役割の説明。・より大きな奉仕活動の実現のために、各クラブ単体での資金だけでは無く地区の補助金を活用した奉仕活動の重要性。・奉仕活動の一番の想いは「楽しい・ありがたい」という気持ちと思います。「ありがたい」というのは自分にとってありがたいでは無く、相手にとって役に立ったかどうかの「ありがたい」を意味します。ぜひ、「楽しい・ありがたい」奉仕活動をお願い致します。 |
| 発表者：国際・社会奉仕委員会　次年度委員長　桑城　伸語（大阪梅田東RC）（15時46分） |
| 【記録内容】国際奉仕・社会奉仕について・自己紹介：弁理士として20年の経験を持ち、ロータリークラブには4年前に入会。「ロータリーの基本理念・クラブ委員長の役割について」・奉仕の理念は「サービスの理想」として、ニーズに応えることが重要。・社会奉仕と国際奉仕の基本理念：地域社会や他国の人々の生活の質を高めることが目的。・平和がキーワード：社会奉仕と国際奉仕の両方で「積極的平和」が重要なテーマ。・プロジェクトの計画と実施の強化、インパクトの向上や資金調達、他クラブとの協力などが委員長としての役目。プロジェクト計画の中で一番難しい地域調査については、マイロータリーのハンドブックの「地域社会調査の実施」を参考に取り組む方法やインパクトに関してもロータリーインパクトハンドブックの活用の推奨「地区国際・社会奉仕委員会の合同化と役割について」・2022年、23年度に地区は国際奉仕と社会奉仕を合併。・効率化と経費削減のため・地区委員会への出向者の教育と育成が目的。・ 国際奉仕と社会奉仕の共通部分を活かし、一つの委員会として活動・第2660地区内のクラブが奉仕活動を円滑に行えるように支援する事の説明「イベント告知」6/21カナダ・カルガリーで行われる地区ガバナーナイトの告知・2026年の台湾大阪ナイトの告知 |
| 発表者：ﾛｰﾀﾘｰ財団委員会　補助金小委員会　委員長　大木　辰也（交野RC）　（16時01分） |
| 【記録内容】寄付と補助金について「毎年ロータリアンから寄せられる多額な寄付金の流れについての説明」・寄付金はロータリー財団（TRF）に集約された後、財団で運用され様々な奉仕活動に使用される。その一部が地区財団活動資金（DDF）という形で地区の方に戻ってきて地区補助金やグローバル補助金としてロータリアンに還元される。・地区補助金とグローバル補助金の違いやその補助金申請の流れ等の説明。・年次基金寄付と配分率の説明・2025-2026地区寄付目標　年次基金150ドル・恒久基金30ドル・ポリオプラス基金50ドル日本円で計34500円　1日あたり94.5円！！ご協力宜しくお願い致します。。 |
| 発表者：古澤みちよ（大阪西南RC）　　　　　　　　　　　（16時17分） |
| 【内容】YPEの目的について　Young Professional ExchangeYPEとはワシントン州シアトルのイサクアRC及び大阪西南RCの共同プロジェクト。・ロータリー人材確保の為に25歳から35歳の若手人材を交換し、キャリアリーダーシップと国際感覚を持った若手ロータリアンを育成することを目的とする・YPEの歴史と他クラブとの協賛するメリットの説明。第1回YPE（2019年9月/10月各1週間）　大阪西南RC：シアトルイサクアRC（地区補助金対象プロジェクト）第2回YPE（2023年4月/5月各1週間）東大阪東RC：大阪西南RC：東大阪RC：シアトルイサクアRCの4クラブにて実施第3回YPE（2023年8月/9月各1週間）大阪西北RC：吹田RC：大阪ユニバーサルシティ－RC：大阪西南RC：シアトルイサクアRC他シアトルの4クラブにて実施 |
| 発表者：北井　雄大（大阪平野RC）　　　　　　　　　　　（16時27分） |
| 【内容】 大阪平野ﾛｰﾀﾘｰｸﾗﾌﾞ50周年記念事業【トイレトレーラープロジェクト】について 能登半島地震（昨年1月1日発生）での経験から被災地のニーズに応えるためのプロジェクト。 ・食料や衣料品は十分に供給されているが、トイレ事情が悪化しているとの声が多かった。・被災地の女性から「トイレ事情が悪化するので早く引き取ってほしい」との要望があった。- トイレトレーラーの設計と機能・多目的トイレを含む男子トイレ、女子トイレを設計。・太陽光発電を利用し、電気インフラが寸断されてもウォシュレットが使用可能。- プロジェクトの進行と協力・ 緊急車両扱いとしてトイレトレーラーを被災地に届けるため、大阪市と協定を結ぶ。・大阪市役所との協定により、緊急または優先車両としての扱いを取得。・21クラブと法人からの協賛を募り、協賛金を集める。・各クラブの協力により、迅速に協賛金が集まった。- メディアと公共イメージ・メディア誘致を行い、地区の公共イメージ向上を図る。 |
| 発表者：村川　幸作　（大阪堂島RC）　　　　　　　　　　　　　（16時37分） |
| 【内容】TSURUMIこどもホスピス「大阪マラソンチャリティ―ランナー」についてTSRUMIこどもホスピスとは、生命を脅かす病気の子どもとその家族の「やりたい」を「できた！」に変える日本初のこどもホスピス事業です。寄付で運営されている。・ただ単に団体にお金を寄付するだけではなく何かしたい！！という思いから大阪マラソンのチャリティーランナーとして大阪マラソンに出走しTSRUMIこどもホスピスに寄付をする事を決定！！大阪マラソン　チャリティーランナーとしての寄付方法の説明1. 団体としての寄付
2. チャリティーランナーへ寄付
3. チャリティーランナーとして出走して寄付（目標寄付金額7万円）

24-25年度はチャリティーランナーとして大阪マラソン出走し寄付を実現！！大阪堂島RCの玉川会員、福本会員が大阪マラソンのチャリティーランナーとして出走。大阪堂島RCのグループラインで実況中継。（ランナーマップでランナーの現在地がリアルタイムに確認）堂島応援団を結成し各ポイントで現地応援。玉川会員、福本会員ともに完走！！ 初めての挑戦で完走し、チャリティ活動も成功。 イベントの成果と影響・出走会員の努力がクラブ内の活気を高めた。・来年の参加については新しいメンバーを募る予定。 |
| 発表者：村岡　基　（大阪北RC）　　　　　　　　　　　　　　　（16時47分） |
| 【内容】タンザニア甲子園プロジェクト- プロジェクトの背景と目的・大阪北ロータリークラブが9年前から取り組んでいる国際社会福祉プロジェクト。・友成晋也氏が主催する「野球道」を通じた人材育成を目指す。・日本の規律や尊重の精神をアフリカに広めることを目的としている。- 支援内容と活動・ 2022年度は支援ができなかったが、過去8年間にわたり支援を継続。・年度ごとに200万円の支援を行っている。（大阪北RC100万円：RI2660地区補助金100万円）・タンザニア・ダルエスサラームRCと共同で本事業を継続的な支援になるように取り組みを開始- 今後の計画・ゴールデンウィーク期間中にタンザニアでの協議を予定。・ 6月には宇津木カップにタンザニア女子ソフトボール代表チームを応援。・第13回タンザニア甲子園の応援と観戦・大阪北RCのタンザニアへの渡航メンバーによるダルエスサラームRCへのメーキャップ予定。 |
| 発表者：パストガバナー　片山　勉　　　　　　　　　　　　　　　　（16時47分） |
| 【内容】講評クラブの共同活動とビジョン 共同活動の重要性・大阪西南RCと大阪平野RCは、多くのクラブや団体と共同していることが重要なキーワードであると指摘。・大阪堂島RC、大阪北RCのスポーツの魅力についても言及。クラブのビジョンの必要性・クラブはビジョンを持つべきであると提案。・各クラブにビジョンを持たせることの重要性を強調。国際奉仕活動の経験トルコのプロジェクト・大阪西南RCからの声掛けで、トルコの首都の病院支援プロジェクトに参加。・国際奉仕委員長ではなかったが、トルコに行く研修に参加。- 海外奉仕活動の難しさ・現地クラブとの情報交換の難しさを実感。・マニラロータリークラブでのストリートチルドレン支援の経験。・現地のニーズに合わせることの重要性を強調。クラブの多様性と特徴・クラブの特徴を認める・大きい小さいに関わらず、クラブの特徴を認めることが重要。・各クラブが自分たちのクラブについて慎重に考えることを推奨。 |
| 発表者：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（　　　時　　　　分） |
| 【内容】 |
| 閉会（　　　時　　　　分） |

**備考・メモ**

|  |
| --- |
|  |

**2025年4月25日（金）までにWordのままメール添付**でお送りください。

**返信先：ガバナー事務所（栗正）　E-mail：****kurimasa@ri2660.gr.jp**